

# がん治療改善へ臨床研究

青森労災病院（八戸）が「センター」開設

## 国内外の医師ら協力



八戸市の青森労災病院（玉澤直樹院長）は、がん治療の現場で生じるさまざまな課題の解決を図るため

青森労災病院が1日に設立した「がん臨床研究センター」について説明する真里谷センター長

「がん臨床研究センター」を開設した。同病院の医師や看護師、公認心理師らが国内外の研究者らとプロジェクトチームをつくり、患者への身体ケアやメンタルサポートなどに関する共同研究に取り組む。得られた成果は院内でのがん治療に役立てるほか、市民公開講座や国際的な学術発表の場で広く情報発信していく。同病院は2014年に県から「がん診療連携推進病院」の指定を受け、20年1月からは高精度な放射線治療を開始。同年11月には院

内の各部門が連携を強化してがん診療と患者や家族の支援に取り組む「がん診療センター」を開設した。公認心理師が患者の不安に寄り添う「がんメンタルケア」にも力を入れ、患者の治療に臨む意欲が高まるなどの効果が表れている。

がん臨床研究センターは今年1日に開設。がん治療改善につながる期待される四つのテーマを抽出し、それぞれにプロジェクトチームを立ち上げて研究を進めている。

院外の協力者には弘前大や帝京大、ストックホルム大（スウェーデン）の医師らが名を連ね、センター長には各チームに研究者として関わる青森労災病院副院長・放射線治療科部長・第二検査科部長の真里谷靖医師が就任した。各チームは▽高精度放射線治療によって限局性前立

腺がん患者に生じる尿路刺激症状などの苦痛軽減に、抗酸化物質を多く含む食品の摂取が有効かどうかを検証▽心理面への働きかけによってがん患者の体内がどう変化しているかを客観的に評価▽次世代のがん診療開拓につなげるためのがんに関する生体内情報の解析▽パセドウ病患者への放射性核種内用療法における身体影響評価—などに取り組む。

また7月と9月には、プロジェクトに関わる院外研究者を招き、八戸市内で市民公開講座を開く。真里谷医師は「がん診療センターの開設以来、多くの患者が来院して治療を受けている。臨床研究で得られた成果を患者にフィードバックして治療に生かすのはもちろん、学問領域にも貢献したい」と意欲を語った。

（千葉真由美）

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許可したものです。